IIDA MUNICIPAL HOSPITAL NEWS

飯田市立病院ニュース

NO.72 2019新年号

「南アルプスが見える街」窪田 進

目　次

- 年頭所感 2
- がん相談支援センターの活動 3
- ねっとわーく
  - 金田医院 4
  - 伝馬町後藤医院 5
- 勤労者まつりに参加 4～5
- 産婦健康診査が始まりました 6
- 話題の広場 6
  - クリスマスコンサート
- 面会制限（禁止）と感染予防の関係 7
- 新連載「レントゲン博士の独り言」が始まります！ 8
- 職場紹介 8
  - 排尿ケアチーム

飯田市立病院　基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院　基本方針

①私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します

②私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します

③私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します

④私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います

⑤私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な経営に努めます

飯田市立病院　理念行動指針

私たちは、誠意　熱意　創意をもって医療を実践します

年頭所感

飯田市立病院 院長
堀　米　直　人

あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

いよいよ平成もあと４か月となり、５月から新しい元号が始まります。激動の平成の30年間を振り返りつつ、当院の歩みを顧みたいと思います。平成の30年間はいつになく災害が多かったように思います。風災害、火山の噴火や地震。とりわけ阪神淡路大震災、東日本大震災は被害甚大でした。地球の長い歴史の中では“ゆらぎ”のうちなのかもしれませんが、我々には大きな試練となりました。医学の面では日本から４人がノーベル医学生理学賞を受賞されました。なかでも山中伸弥教授のｉＰＳ細胞は一部で臨床研究が始まり、大村智教授のエバーメクチンは感染症を減らし、本庶佑京大特別教授の免疫チェックポイント阻害因子の発見はがん治療に応用されるなど、医学の上で劇的な変化がもたらされました。

では、飯田市立病院はどうでしょうか。一番の出来事は平成４年秋に東栄町の旧病院から当地に新築移転したことです。しかし当時は先進的だった施設や機器も、医療技術・機器の進歩や当地域の病気や医療需要に変化がみられ、対応が必要となりました。そのために６東病棟増設に始まり南棟（救命救急センター）、北棟（周産期センター）、本館１階がん診療・緩和ケアセンター、リニアック棟などの３次にわたる整備・改修をおこなって現在に至っています。

少子高齢化、労働力人口減少、多死社会などの課題に対し、国は2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築を進めています。医療と介護の連携や福祉の充実のために、飯田市立病院は地域のかかりつけの診療機関と連携して皆様の健康を支えます。急性期の入院治療は当院が担当し、安定したら日頃の診療はかかりつけの先生にお願いするというように、地域内で役割を分担して皆さんの健康維持にあたります。

昨年の夏は非常に暑く、例年以上に体調を崩されて救急搬送される方が多い年でした。救命救急センターは積極的に患者さんを受け入れ、地域医療機関と輪番救急体制をとり飯田下伊那地区の救急症例に対応しています。

がん診療では３月にリニアック棟が完成し、放射線治療が今まで以上に充実しました。手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアなどの治療部門と、がんに関するさまざまな相談に対応するがん相談支援センターが協力して患者さんの治療やケアに努めます。

周産期医療では、現在当地域の分娩はすべて当院が担い、健診は地域内の産科医療機関と連携しています。新たに導入される周産期情報連携システムを活用して、今まで以上に正確な情報共有を図ります。また妊産婦のメンタルヘルスケアへの対応も始まりました。

昨年末より自動再来受付機と診療番号表示を稼働しました。患者さんのプライバシー保護や、再診受付・検査の流れの円滑化や医療安全にも貢献すると思います。また、２年間かけて施設の長寿命化と快適な療養環境を整えるために病棟を順次改修してまいります。しばらくの間ご不便をおかけすることと思いますがどうかご了承ください。

今年も病院基本理念であります「地域の皆さんの健康を支え、信頼される医療を実践する」ことを職員一同取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

飯田市立病院 がん相談支援センターの活動

がん相談支援センターは、全国の【がん診療連携拠点病院】に設置されているがんの相談窓口です。がん相談支援センターでは、がんに関する様々な質問や相談に、専門の認定看護師や医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）がお応えしています。がんの診断や治療などについてもっと知りたいとき、理解をより深めたいとき、不安で仕方ないときなど、お話を伺いスタッフが一緒に考えお手伝いをします。

現在、インターネットを始めとして、がんに関する情報があふれています。中には個人の限られた体験に基づくものや、間違った情報もあります。多くの情報に振り回されず、信頼できる情報を集めるために、がん相談支援センターや緩和ケアサロンに設置してある冊子等を上手に利用していきましょう。

がん相談支援センターは、当院にかかっている患者さん・ご家族はもちろん、どなたでもご利用いただけます。匿名でのご相談も可能ですので、お気軽にご相談ください。相談は無料です。

○相談をご希望の方は… 面談または電話にて

受付時間 平日8:30～17:15

直通電話 ☎0265－21－2010

場　　所 130 がん診療・緩和ケアセンター内

◆がんサロン結（ゆい）を開催しました

◆11月７日（水）「感染予防の基礎」　講師：感染管理認定看護師

感染対策の原則は伝播（でんぱ）経路（接触感染・空気感染等で病原体がうつること）を断つことがポイントです。大勢の方が触れるドアノブやエレベーターのボタンを手で触れ、口等から体内に入ることで感染します。手洗いや正しくマスクを着用することは、予防の基本です。治療中の方はより注意して冬季間を過ごしましょう。

◆12月６日（水）「クリスマスの飾り作りとおしゃべり」　講師：ボランティア

ボランティアさんに来ていただき、クリスマスの飾り作りをしました。患者さんやご家族には、何か好きなことに没頭できる時間が必要です。お互い褒め合い、充実したひと時を過ごすことができました。素敵な作品がたくさん出来上がりました。

○がんサロン結（ゆい）　今後の予定（※１月はお休みです）

- ２／６（水）14時～16時　「自分でできる気持ちのケア」　臨床心理士
- ３／６（水）14時～16時　「家庭でできるエクササイズ」　理学療法士

☆申し込みは不要です。当院を受診していない方も参加可能です。
☆場所：緩和ケアサロン（130 がん診療・緩和ケアセンター内）

金田医院

（豊丘村）

ねっとわーく

豊丘に移転しました

金田医院　院長　金田　和彦　　医師　金田　陽子

新年あけましておめでとうございます。

当院は昨年７月に飯田市高羽町から豊丘村神稲（くましろ）の吉川医院跡に移転しました。豊丘村には「道の駅とよおかマルシェ」が昨年に新設され、県外ナンバーの観光バスやキャンピングカーをよく見かけます。冬は“丘の上”ほど寒くないと言われていますが、これから迎える寒冷期は果たしてどうでしょうか？

現在の金田医院は駐車場が広く、移転前のように車を停めるところがない‼というような問題は生じなくなりました。また、診療所前には「金田医院前」というバス停（村営バス）を設置して頂き、アクセス良好です。

標榜科は内科・皮膚科、２名の常勤医による２診体制で、一般診療に加え関節リウマチに代表される膠原病（自己免疫疾患）の診療も引き続き行っています。皆様の健康増進の一翼を担うとともに、納得いただける、丁寧な説明を心掛けて診療を行なっていきたいと考えています。また、近隣の病院と連携しながら訪問診療にも取り組んでいく所存です。

移転して半年経ちました。気持ちも新たに襟を正して新元号を迎えようと思います。

金田先生

所在地	〒399−3202　豊丘村神稲549−4
	☎0265−48−8488
診療科目	内科、皮膚科
診療時間	8:45～12:00／14:30～18:00
休診日	水曜日午後　金曜日午後　土曜日午後
	日曜日・祝日
往診	応相談
駐車場	あり

勤労者まつりに参加、糖尿病予防啓発を行いました

11月23日に飯田勤労者福祉センターを会場に「第21回勤労者まつり」が行われ、当院含め飯伊地域の８医療機関で構成する飯伊糖尿病連絡会が、糖尿病予防啓発を行いました。

この活動には例年、飯田下伊那臨床検査技師会にご協力いただいていますが、昨年から飯田下伊那歯科医師会にもご協力いただくようになり、今年も糖尿病と関連の深い歯周病予防啓発にも取り組みました。このコーナーでは、ＤＶＤを使ったわかりやすい歯周病予防の解説や歯の模型を使った歯磨き指導などが行われました。

『１日に必要な野菜の量をはかってみよう』というコーナーでは、緑黄色野菜、淡色野菜をそれぞれ実際に容器に取って量ってみる体験ができ、１日に必要な野菜量を体感していただきました。その隣では、量ったばかりの野菜量を参考にして、管理栄養士による栄養相談が行われました。

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

伝馬町後藤医院

（飯田市伝馬町）

丘の上の内科診療所

後藤医院　院長　**後藤　由也**

当院は今から70年前、前身である後藤医院産婦人科として現院長の祖父が昭和24年に開業したことに始まります。祖父は現・高森町にある後藤医院の出身であり、当院はいわゆる分家にあたります。昭和58年、産婦人科と並行し皮膚科として父が継承。これまで多くの患者様にご支持を頂いて参りましたが、前院長の逝去を受け、平成30年６月に内科を主な診療科として現院長の私が継承、再開いたしました。

私の専門は脳神経内科で、日本医科大学で脳卒中診療を、東京都立神経病院で認知症をはじめとした神経難病の診療に従事して参りました。2016年、飯田へ戻り栗山会飯田病院で内科医として勤務後、現在に至ります。

飯田に限らず、都内で内科医として仕事をしていた頃から痛感してきたことは、超高齢社会・日本での医学の限界でした。開闢以来、今以上に御高齢の方々が独居あるいは夫婦だけで生活しようとした時代はありません。医学の発達により平均寿命が延びたので当然ではありますが、空洞化した社会・家族関係は、寿命が延びたことを喜べない状況を生んでいます。治す医療一辺倒の価値観は転換を迫られ、介護と医療はよりシームレスに連携することが求められています。特に家族不在となりつつある高齢者医療においては、医師だけでは患者様一人一人の尊厳は守れず、多職種連携で当たらなければ全人的な医療は達成できない時代となっており、より地域に根ざした医療に携わりたい想いから故郷での開業を選びました。

「病気を診る」のではなく「患者様をみる」ことを忘れず、対話を重視しております。往診・訪問診療を含め、微力ながら地域医療に貢献できるよう尽力いたします。家族の一員という感覚で何でもご相談をいただければ光栄です。よろしくお願いいたします。

後藤先生（前列中央）とスタッフの皆様

所在地	〒395−0016　飯田市伝馬町2−32 ☎0265−24−6557
診療科目	内科、脳神経内科、皮膚科
診療時間	9:00～12:00／15:00～18:00
休診日	金曜日、第2・4土曜日、第1・3・5土曜日午後 日曜日、祝日
往診	可
駐車場	あり

また、連絡会構成病院の看護師による血圧測定、飯田下伊那臨床検査技師会による血糖測定も行われ、その数値を基に医療相談コーナーで直接、医師に相談することができました。今年は天候にも恵まれ、例年より多くの方にお越しいただきました。ありがとうございました。

飯伊糖尿病連絡会

○飯田病院　○輝山会記念病院　○下伊那厚生病院
○健和会病院　○県立阿南病院　○下伊那赤十字病院
○まるやまファミリークリニック　○飯田市立病院

1日に必要な野菜の量ってどのくらいかな？

血糖値をチェックしましょう

産婦健康診査が始まりました

近年、産後うつの予防や新生児への虐待予防を図る観点から、産後２週間、産後１ヶ月など出産後間もない時期の産婦に対する支援の重要性が指摘されています。

このため、厚生労働省では平成29年より産婦健康診査（以下、産婦健診）の２回分の費用を助成することになり、飯田市では平成30年10月に出産された方から全ての産婦を対象として事業を開始しました。

当院では、当院で出産された全ての産婦さんを対象に産後１か月検診を行っていますが、お母さんが当院の受診が必要な場合や赤ちゃんがNICUに入院していたことがある場合には、産後２週間健診を行っています。産後のお母さんの身体と心の体調、赤ちゃんの黄疸や体重増加の様子、授乳･育児相談を行うため、当院では１人に１時間から１時間半程かけて行っています。赤ちゃんの順調な成長に安心される方や、中には慣れない育児の不安で涙を流しながら話をされる方もいます。最後には、「話しが出来て気持ちが楽になりました」と言われる笑顔に、私達もほっとします。また、健診の結果、早期に支援介入が必要な場合には、各市町村との連携を図り対応しています。これからも、お母さんと赤ちゃんの笑顔の為にスタッフみんなで頑張りますので、ご相談下さい。赤ちゃんの健やかな成長と、ご家族の笑顔のために、精一杯応援させていただきます。

話題の広場

クリスマスコンサート　12/20

12月20日午後７時から、当院の医師、研修医の有志６人によるクリスマスコンサートを外科外来待合で開催しました。患者さんや家族の方など100人以上の方にお越しいただきました。

クラッシック、スタジオジブリの名曲や、思わず口ずさみたくなるポップスなどの演奏を披露すると、聴衆の皆さんは思わず口ずさんだり、リズムをとって体を動かしたりと、音の世界に浸っていただけたことと思います。

飯田市立病院ボランティアの会では年間を通じて様々なイベントを計画しています。一般の方も大歓迎です。ホームページ等でお知らせしますので、是非お越しください。

面会制限（禁止）と感染予防の関係

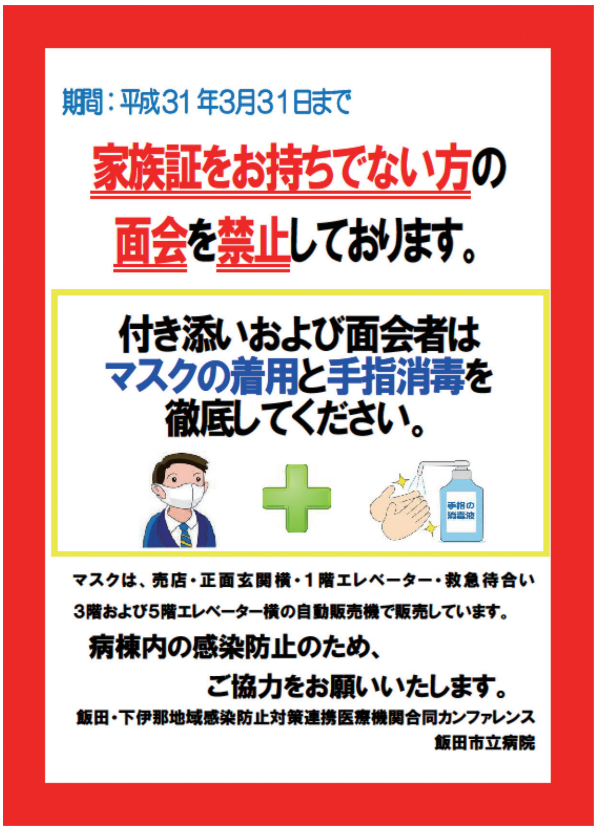
医療機関では冬季になるとなぜ面会を制限（禁止）するのでしょうか？

それは、冬季は他の季節とくらべ、空気が乾燥しウイルスが浮遊や伝播しやすくなることや、人の体温が低下することで外敵の侵入を阻止する免疫機能が低下するため、感染症が発生しやすいからです。そして感染した人のせきやくしゃみ、おう吐物や下痢などで汚染された環境などが感染をさらに広げます。中には症状が無くとも感染源となる人（不顕性感染）も存在し、多くの人が集まる場所や、多くの人との接触が感染リスクを高めます。

病院で入院されている患者さんの多くは、高齢者や小児であると同時に病気や治療により抵抗力が低下した方々で感染症を発症すると重症化してしまう恐れがあります。

このような患者さんを感染から守る対策として、面会の制限やまた特に感染症流行が本格的となる１月から３月の期間は面会を禁止させていただいています。

ご理解とご協力をお願い致します。



●家族証をお持ちでない方の面会禁止へのお願い

平成31年１月７日～平成31年３月31日までの間「家族証をお持ちでない方の面会を禁止」しております。

但し、地域の感染症流行状況によっては面会禁止期間が早まることや延期する場合がございます。

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会
〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田（0265）21－1255代
FAX●飯田（0265）21－1266
http://www.imh.jp

近くの「かかりつけ医」を持ちましょう。市立病院へ初診で来院される場合、かかりつけ医からの紹介による事前予約があると待ち時間が短縮されます。

新連載 “レントゲン博士の独り言”が始まります！

飯田市立病院ニュースでは患者様への情報発信の場としまして、前号まで薬剤科が「情報カプセル」を担当してきました。平成最後の新年を迎えた2019年新年号からは「レントゲン博士の独り言」と題して、放射線技術科が担当させて頂くことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。当院の放射線技術科では23名の診療放射線技師が様々な画像検査や放射線治療を担当しております。新連載の「レントゲン博士の独り言」では当院が行っている画像検査（レントゲン写真、ＣＴ検査、ＭＲＩ検査、ＲＩ検査、ＰＥＴ－ＣＴ検査、超音波検査など）や放射線治療について分かりやすく説明していきたいと考えております。また皆様がご心配されている放射線の解説や被曝についても掲載していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また検査についてのご質問、ご要望等ございましたら、検査担当技師までお気軽にお声がけください。

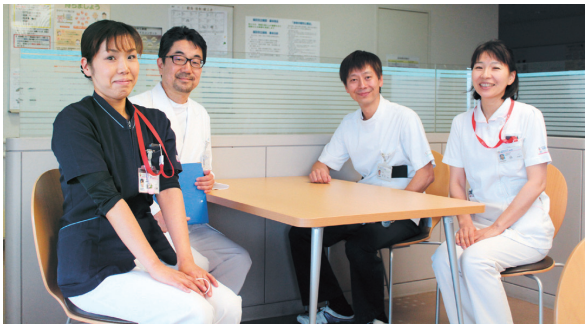
シリーズ ●職場紹介● その59

【排尿ケアチームの紹介】

私たち排尿ケアチームは、今年度発足した医師、看護師、理学療法士から構成される、患者さんの排尿の自立を支援する専門のチームです。

入院中の患者さんは、尿量の測定や安静を目的に、一時的に尿の管（尿道留置カテーテル）を挿入し、排尿を管理する場合があります。しかし、患者さんの基礎疾患や術後の回復状況によっては、尿道留置カテーテルが不要になったのにもかかわらず、抜去後に排尿が困難になってしまう方がいます。入院前にトイレに通えていた患者さんは、退院時も元の状態に戻っていただくと共に、患者さんの排尿が自立に向かえるよう、チームで様々な面から考え支援をさせていただくのが、私たちの役目です。

当院は急性期病院であり、入院期間も短く、支援の途中で回復期の病院に転院となる状況もありますが、転院先とも連携を取り、継続した支援に繋げています。排尿のことでお困りの際は、お気軽にご相談ください。



新任医師の紹介

平成30年10月2日～平成31年1月1日

小児科
大澤　由寛
（おおさわ　よしひろ）
平成28年３月卒業
平成30年10月15日着任
前勤務病院
信大附属病院

乳腺内分泌外科
清水　忠史
（しみず　ただふみ）
平成26年３月卒業
平成30年11月１日着任
前勤務病院
信大附属病院

あとがき

いよいよ「平成最後の年」になりました。先日新聞記事で、ある調査機関が、長野県民を対象に印象の強かった平成の出来事について調査したところ、１位が「東日本大震災」２位が「地下鉄サリン事件」でした。また昨年の漢字も「災」で西日本豪雨、北海道、大阪の地震、記録的猛暑など自然災害が多発し、平成の時代を象徴するような１年でした。

今年が、そして新しい時代が、「災い転じて福となす」－平穏で明るく希望の持てる時代となるように祈念したいと思います。　　編集委員　大島 康弘

本誌に対するご意見、ご感想をお待ちしております。